

うぐいす



はじまりの家庭教育

家庭教育とは

家庭教育は、すべての教育の出発点。
家族のふれ合いを通して、子どもが、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけていく上で重要な役割を果たしています。



家庭教育の昔と今

子どもは家庭の中だけで育つわけではありません。学校や地域の様々な人たちと関わり、見守られながら成長していきます。

かつては、親以外にも多くの大人が子どもに接することで、それらが全体として家庭教育を担ったり、親同士や地域の人々とのつながりによって、親として学び、育ち合う中で、子どもたちを「地域の子ども」として見守り、育てるなど、地域において子育てや家庭教育を支えるしくみや環境がありました。

しかし、現代ではそういった地域の繋がりが希薄化し、地域で子どもを育てる光景も見られなくなっているのが現状となっています。

これからの家庭教育

家庭教育はこれからの未来を支える子どもたちへの大切な贈り物です。

そして、子どもを育てることは、地域や町、県、日本を支える人材を育てる重要な営みです。

保護者の方々の頑張りに対して、地域社会や学校、行政、企業等も力を合わせ、子育て家庭の「支え」となり、社会全体で子育てや家庭教育を応援していくことが求められます。

そのためには地域の人と家庭が互いに関わるが必要となってきます。地域で行われる行事や活動へ積極的に参加し、地域と家庭の繋がりを深めていきましょう。

家庭教育に関連して子どもとの接し方をテーマにした講演会を 10 月 15 日（日）に開催します。この機会に子どもとの接し方について、悩んでいる方、学んでみたい方、ぜひ参加してみてください。当日参加もできます。

テーマ『子育てに役立つ行動学入門
～ペアレントトレーニングを通して

子どもへのかかわりを学ぶ～』

時間：13時30分～

場所：丸森まちづくりセンター

講師：福島県立医科大学 看護学部

家族看護学部門 佐藤 利憲 氏

秋の夜長の読書週間

◎読書の効果

日が落ちるのも徐々に早くなってきているこの頃、秋を身近に感じる時期となってきました。それに合わせて、過ごしやすい気候にもなっています。そんな過ごしやすいこの時期に、読書はいかがでしょうか？

読書からは色々なことを学ぶことができます。語学力向上、コミュニケーション力向上、文章力向上、想像・創造力向上など複数の能力の向上にもつながり、他にも他者との話題のきっかけ、時間の有効活用、ストレスの解消にもなります。

◎子どもの時から読書をしよう。

国立青少年教育振興機構の調べによると子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向（自己啓発・職場意識等）や社会性（共生感・規範意識等）などの「意識・能力」が高いとされています。

また、子どもの頃に読書活動が多い大人ほど、ボランティア活動に参加している人が多い傾向にもなっています。

さらに、子どもの頃（就学前から中学時代）の読書活動が多い中学生や高校生ほど、現在の「意識・能力」が高くなるということです。例えば、小学校に入学する前や低学年に読書活動が多かった中学生や高校生は、人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識などの能力が高くなる傾向があるそうです。

他にも、子どもの頃に読書活動を多く経験した大人は、同時に子どもの頃の体験活動も多く経験しており、そのため大人になってからの「意識・能力」がより高くなることになるということです。



10月のこよみ

- 7日 齋理蔵の講座
- 15日 家庭教育セミナー
『子育てに役立つ行動学入門』
- 17日 はつらつ学園第4回学習会
- 19日 女性講座 着物レッスン
- 22日 丸森町健康まつり
(ソフトバレーボール、グランドゴルフ)
- 28日 学び支援体験活動
- 28日 文化財めぐり(郡山市)